

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 南小倉 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

#### 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

#### 生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

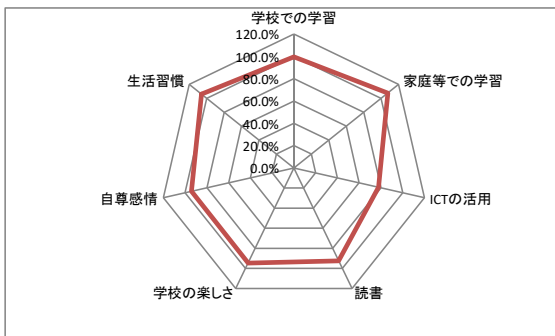
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	領域別に昨年度と比較すると、「読むこと」では昨年度を上回ったが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では下回った。「言語文化に関する」ことでは、同程度であった。無回答率は減少した。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「漢字に関する問題」「場面や描写から内容を捉える問題」「論理の展開に関する問題」	
	努力が必要な問題	「根拠を明確にして、自分の考えが伝わる文章を書く問題」「表現の技法について理解する問題」	
数学	全体的な傾向や特徴など	領域別に昨年度と比較すると、「資料の活用」では昨年度を上回ったが、「数と式」「図形」「関数」では下回った。無回答率に変化はなかった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題」「データの傾向を捉え、数学的な表現で説明する問題」	
	努力が必要な問題	「事象を数学的に捉え問題解決の方法を説明する問題」「連立方程式」「三角形の合同条件を理解している」	
理科	全体的な傾向や特徴など	「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の全領域で全国平均を下回った。特に、「粒子」「生命」の領域の正答率が低かった。無回答率は、説明する問題に集中していた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「力の働きに関する知識・技能を活用する問題」「静電気に関する知識・技能を活用する問題」	
	努力が必要な問題	「化学変化に関する知識・技能とエネルギー領域に関する知識・技能を関連付ける問題」	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問項目「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」では、77%の生徒が肯定的な回答しており、授業改善が進んでいることが分かった。</li> <li>・家庭等での学習の時間数が平日・休日ともに昨年度より減少しているため、家庭等での学習時間を確保させる取組を検討する必要がある。</li> <li>・朝食を食べる生徒や決まった時間に寝る生徒の割合は昨年度より増えている。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・各教科とも「思考・判断・表現」を問う問題の無回答率が高かったため、自分の言葉で書く取組をより増やしていく。
- ・朝自習や定期考査の行い方や補充学習(ステップアップタイム)を工夫し、基礎・基本的な内容の定着を目指す。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習がより効果的になるように、宿題や自主学習ノートの取組を工夫する。
- ・読書の時間の増加や読書の面白さが伝わるように、図書室の使い方や読書の取組を工夫する。